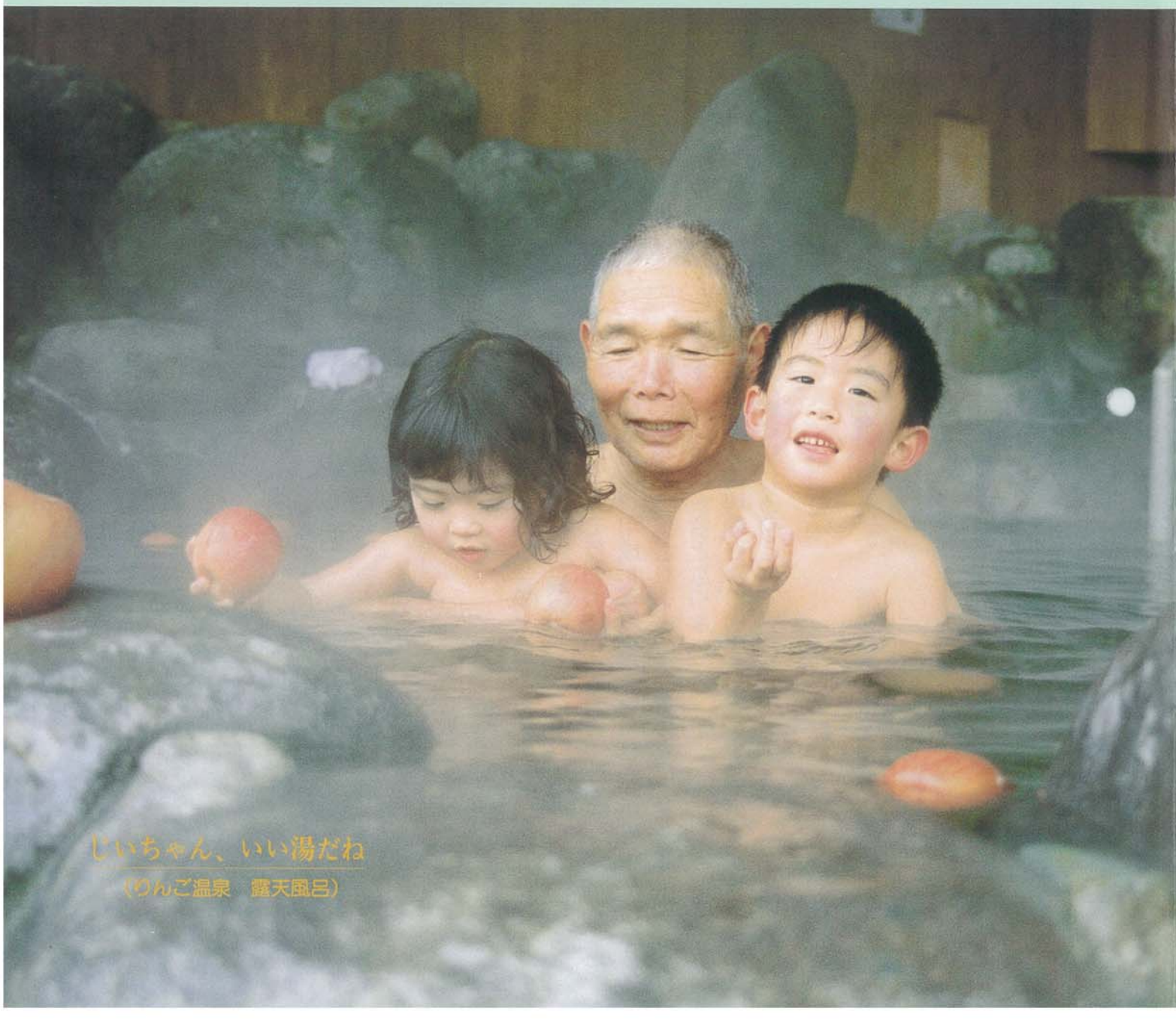
あさひまち

広　報

2002年12月号
No. 553

特集　学校が輝く　地域が輝く　～小学校統合と地域の未来～

町政スポット／自治功労者等表彰、オーストリッチセミナー　ほか
カメラさんぽ／北部地区の若者たちがそばづくりに挑戦
まちの話題／産業まつり、児童文学作家最上一平さんの課外授業　ほか



じいちゃん、いい湯だね
（りんご温泉　露天風呂）

リレーで勝ち大喜びの白組（宮宿小かぼちゃ運動会）

特集 ◐ 小学校統合と地域の未来

学校が輝く 地域が輝く

来年四月、宮宿小学校と統合を予定している送橋小学校と上郷小学校の統合覚書調印式が十一月二十二日、役場町長室で行われました。

この統合は、平成七年度に見直された町の学校整備計画に基づき実施されるもので、本校としては立木小、水本小に次ぐ統合となります。

統合＝学区再編により、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わろうとしています。

「学校が無くなるのはとっても寂しい。でも、宮小に行けば、たくさん友だちがいるからうれしい」と、複雑な思いを口にする清野聡志くん（送橋小五年）。「人数が増えてうれしいな。友だちいっぱいできるといいな」と、期待に胸をふくらませる浅岡優希ちゃん（上郷小三年）。「保育園の時の友だちと、またいっしょに勉強したり遊んだりできるので楽しみ」と、うれしそうな鈴木琴美ちゃん（宮宿小・三年）。

送橋小・上郷小・宮宿小の統合まで約四カ月。子どもたちは様々な思いで「統合の日」を迎えようとしています。

少子化により年々減少する児童数

学校統合が進められる理由の一つに児童数の減少があります。

朝日町が誕生した昭和二十九年に約二千五百人いた児童数は年々減り、今年は四百八十二人、平成二十年には三百八十五人になると予想されています。【左／小学校児童数の推移参照】

児童数の減少は、教育環境に大きな影響をもたらします。例えば「野球などのスポーツができない」「一定の枠の中でしか人間関係が築けない」など、物心両面で支障がでてきます。

町教育委員会の原喜内教育長は「少人数はきめ細やかな指導ができ、生活指導や学力面で充実が図られますが、友だち同士の中から何かを学ぶこと、例えば、自分の短所や長所を友だちとの交流の中で気づき、高めることなどは、なかなか難しいものです。自分の個性は人の中に入って初めてわかるものだと思います。友だちが少ないということはそれだけ自分を映す鏡が少ないのです。

今の子どもたちは自分で課題を見つけて解決するなどの「生きる力」が不足していると言われ、学校教育の現場では生きる力の育成に取り組んでいます。集団になじみ、自分を表現し、コミュニケーション能力や協調する能力を学ぶことで生きる力は身につきますが、少人数では学びにくいことなのです」と話します。

何度も見直されてきた学校整備と学校統合

町内初の小学校が誕生したのは明治六年、西村山地区で三番目の小学校として大谷に開設されました。翌年には西五百川小、宮宿小、上郷小、大沼分校が開校。続いて三中分校、立木小、和合小…と地域の教育拠点が次々誕生していきました。

昭和二十九年の朝日町合併当時には本校八校・分校八校あり、約二千五百人の子どもたちが学んでいましたが、昭和四十年代になると山間部の過疎化が進み、児童数が徐々に減少。また、創立百周年を迎えた昭和五十年代に入ると校舎の老朽化が目立ちはじめ、新校舎建設を求める声が各校から寄せられるようになりました。

ほぼ同じ時期に、国は景気浮揚策の一つとして公共投資の大幅拡大を推進。学校改築などの事業が強力に進められるようになり、町においても昭和五十二年度から本格的な学校整備計画に取り組むことになりました。昭和五十四年度の西五百川小を皮切りに、宮宿小、上郷小、送橋小…と、毎年新しい校舎を建設。景気が最高潮に達した平成四年には、分校整備計画を策定しました。しかし、経済の悪化や少子化問題など社会情勢の急激な変化にともない、学校整備は計画どおり進まなくなっていきました。

町陸上大会で活躍する子どもたち（和合小）

●小学校児童数の推移

（5月1日基準学校基本調査より）

●小学校統合のあしあと

昭和

29年11月	朝日町誕生。町内の小学校数は本校8校、分校8校の計16校
46年3月	立木小学校木川分校閉校
49年3月	立木小学校一ツ沢分校閉校
53年1月	小学校整備計画に取り組む
55年2月	西五百川小学校新校舎完成
56年6月	宮宿小学校新校舎完成
57年6月	上郷小学校新校舎完成
58年6月	送橋小学校新校舎完成

平成

元年2月	水本小学校新校舎完成
3年3月	立木小学校新校舎完成
4年11月	分校整備計画に取り組む
7年3月	学校整備計画の見直しを実施
7年3月	大谷小学校大沼分校新校舎完成
8年3月	西五百川小学校三中分校閉校
9年3月	上郷小学校杉山分校、大谷小学校川通分校閉校
11年3月	西五百川小学校大船木分校、大谷小学校大暮山分校閉校
11年10月	大谷小学校新校舎完成
13年3月	立木小学校閉校。西五百川小学校と統合
14年3月	水本小学校閉校。宮宿小学校、山辺町立作谷沢小学校とそれぞれ統合
15年3月	送橋小学校、上郷小学校閉校。宮宿小学校と統合予定

学校が輝く　地域が輝く

送橋小で飼っていた金魚をひと足早く宮宿小の池へ統合（交流学習）

二十一世紀をめざした教育のあり方を答申

学校整備計画を策定してから約二十年の長い年月がたち、社会情勢が大きく変わってきたことから、町教育委員会は平成七年に学校整備計画を再度検討することにしました。そして、平成七年三月に「二十一世紀をめざした朝日町教育の在り方」と題した学校整備計画の見直しをまとめ町に答申しました。

その主な内容は▼関係地区民との協議を得て統廃合を進め、分校の改築は行わない▼将来朝日町の小学校は三校に統合する▼三㎞以上の遠距離については、スクールバスなどによる通学とする▼統合により廃校となった施設については、生涯学習施設などに活用する方途を検討するというものでした。

この答申を受けて各学区では座談会が開催されました。しかし、学区再編を巡って一部反対の意見があり、和合と上郷地区の学区変更を行ったうえで、改めてこの答申に沿った学校整備を進めていくことになりました。

はじめに分校の統合を進め、平成七年度から順に、三中・杉山・川通・大船木・大暮山の各分校を本校に統合。次に小規模校の統合を行い、平成十二年度に立木小が西五百川小と、平成十三年度に水本小が宮宿小・山辺町立作谷沢小とそれぞれ統合しました。そして来年四月には、送橋小・上郷小・宮宿小の統合が予定されています。

学校最後の年。特別な思いで送る学校生活

今年は学校最後の年―。送橋小と上郷小は、特別な思いで今年四月の入学式、出発式を迎えました。

送橋小では「地域の人や自然、学校に感謝しながら最後の一年を飾ろう」を児童会目標に掲げ、学校生活を過ごしてきました。

夏休みには学校裏にある子どもの森で宿泊学習を行い、手づくりのテントを設営したり、送橋川でカヌーをするなど、学校最後の夏を深く胸に刻みました。また、総合学習の時間を利用して全校生一人ひとりが「学校のあゆみ」を学習。昔の遊びや暮らし、学校のことなどを地域の人に聞いたりしながら一冊の本にまとめました。

一方上郷小では、地域とのかかわりを大切にした学習活動に重点を置き取り組んできました。

親子で地域をめぐったり、学校宿泊体験を行ったほか、同校卒業生の児童文学作家最上一平さん（東京都在住）を講師に招き童話づくりにも挑戦しました。全国的に活躍する先輩から直接指導を受けた子どもたちは、上郷小で学んだという自信と誇りを感じたに違いありません。

また、統合に向けた取り組みとして「子どもたちには大勢の中でも自分の考えをはっきりと述べられるような学習指導を行ってきました。保護者のみなさんには宮宿小の学校だよりをコピーして渡すなど、できるだけ不安を取り除くようにしてきました」（送橋小長岡信悦校長）、「学習面では基礎学力の向上を目標に取り組みました。生活面では、宮宿小に合わせて給食着を個人持ちにしたり、夏場のゴム草履をやめるなど、新しい学校に早くなじめるように努めてきました」（上郷小佐藤義弘校長）と、学校側のきめ細かな配慮も行われてきました。

子どものことを一番に考えて統合を決意

「統合の話を初めて聞いた時、学校がなくなるという寂しさが込み上げてきましたね。時代の流れとはいえ、やり切れない思いがみんなの心にあったと思います。統合に向けての話し合いの中でも『子どもたちの声が聞

上郷小・送橋小 取り組み

学校のあゆみを学習し、発表会を開いた（送橋小）

最上一平さんを講師に招き童話づくりを学ぶ（上郷小）

こえなくなるのは寂しい』『大きな学校がいいとは限らないのでは…。小さい学校なりの良さもあるのではないか』などの意見が出されました。最終的には、今後の情勢などを考え『学校がなくなるのは寂しいが、子どものことを一番に考えると統合止むなし』という結論に達しました」と、統合までの経緯を話してくれた送橋小ＰＴＡ会長の岡崎信博さん（下芦沢）。

学校統合の話は平成十一年度に持ち上がり、送橋小・上郷小は当初、水本小とともに平成十四年四月に行う予定でした。しかし、統合に向けての準備期間が短く、地域の理解も十分でないなどの理由から一年先延ばしになりました。

着々と進む新しい学校づくり

当初の地区座談会などでは「大規模な統合になるのだから、校名なども変えてまったく新しい学校を作っていくべきではないか」との意見が出されましたが、校名変更などには不都合な点も多く、十分話し合った結果、校名や校歌は現在の宮宿小を継続させることになりました。体育着はデザインを一新し、平成十四年度入学生から新しいものを着用することに決定。施設面では、平成十三年度に体育館、平成十四年度にグラウンドの改修工事を行い、受け入れ体制を整えてきました。

現在、子どもたちは定期的に交流学習を行っています。先月行われた交流学習では、来年四月からすぐに対応できるようにバス通学の予行練習を行い、停留所や乗り方を確認しました。

また、保護者と学校は統合校代表者会を組織し、ＰＴＡ委員の構成や規約の検討、学校行事や事業の展開などを話し合っています。

宮宿小ＰＴＡ会長の松田勝美さん（栄町）は「地域から学校がなくなることへの大きな不安、子どもたちをスクールバスで遠くまで出してやらなければならない心配などを抱えて送橋小と上郷小は統合しようとしています。では、宮宿小はどうかというと、学校の場所もそのまま、校名もそのままなので、どうしても漫然と向き合ってしまいます。でも、それではいけないと思うのです。大きな不安と痛みをともなって統合しようとしている人たちのことを考えて、どうしたらベストの形で統合を迎えられるか、宮宿小でも一人ひとりが心をくだいていく必要があると思います」と、新生宮宿小をみんなで作り上げていくこ

母体校としての取り組み

母体校となる宮宿小

学校が輝く　地域が輝く

11月22日に行われた
統合覚書調印式

との大切さを話します。

「子どもはもちろん、親同士も仲良くならなければならない。宮宿小の思いは大変うれしい」と話す送橋小・上郷小PTAのみなさん。子どもたちのために保護者が今、一つになってがんばっています。

統合への心配と不安

よりよい統合に向けてがんばっているとはいえ、保護者や地域の人たちは「大きな集団になじめるのか」「スクールバスでの通学が心配」「地域からより離れた学校で学ぶことになり、地域に対する愛情が薄れるのではないか」「学校と地域のかかわりがなくなってしまうのではないか」などといった不安や心配が少しあるようです。

そのことに対して宮宿小の安藤昭郎校長は「子どもの様子を見守りケアするために、現在送橋小、上郷小に勤務している教員数名を子どもたちと一緒に宮宿小へ異動してもらえるよう町教育委員会にお願いしています。子どもたちがこれまでの学校と同じようにいきいきと過ごせるように教職員一丸となって対応したいと思っています。

地域とのかかわりについては、送橋小の子どもの森を使って宿泊体験をしたり、上郷方面へ遠足を行うなどして、その土地の自然や文化に触れたいと思っています。すばらしい教育施設や環境が増えるのですから、大いに活用するとともに、それぞれの地域の宝をこれまでと同様大切にしたいと考えています。

また、学校開放日を今年度よりも増やして、多くのみなさんに学校の様子を見ていただきたいと思っています。送橋・上郷地区の方たちから一日も早く私たちの学校だと言っていただけるように学校としても努力してまいります」と話しています。

統合を機に考えたい子育て支援体制の充実

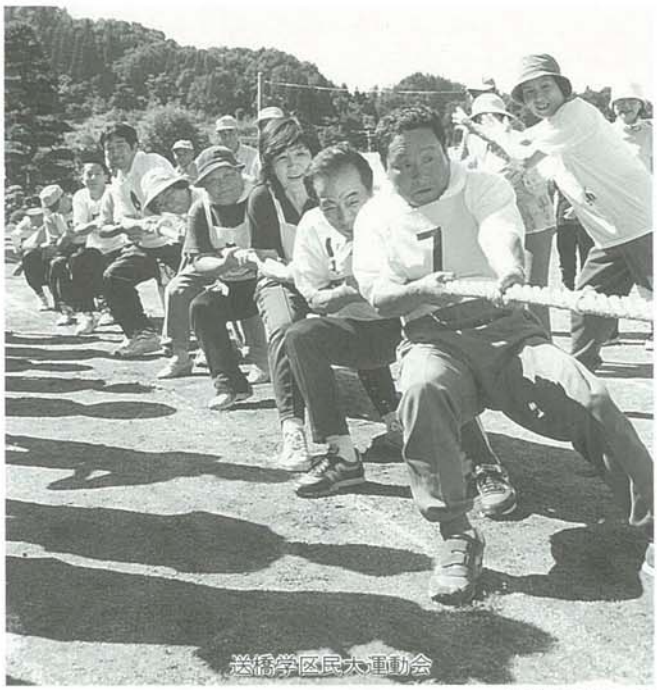
統合を機に上郷小のPTAでは、新たな組織を立ち上げるそうです。

「上郷小では保護者全員がPTAの役員になっています。しかし、宮宿小と統合すると地区から選出されるのは二人だけ。選出された役員は負担が多く大変だし、保護者同士の交流も少なくなるのは寂しいということで、上郷地区独自の保護者連絡会を作ることにしました」と上郷小PTA会長齋藤義幸さん（杉山）。さらに「子どもたちが地域にいる時間が短くなり、地域への愛着が薄れてしまうのではないかという心配があります。学校が終われば、できるだけ早く帰してもらえるよう要望しているところですが、週休二日制を利用した地域独自の活動を、保護者会が中心となって進めていくことなども今後話し合いたい」と話しています。

地域に子どもたちを早く返してほしいという意見がある一方、昨年統合した水本小の保護者、岡崎久美子さん（水本）からは「タクシーで帰ってきますが、帰宅時間が早いので、できればもう少し遅くしてもらいたいですね。帰ってきても近所に友だちがいないので、ちょっとかわいそうに思います。できれば学校が終わった後に利用できる学童保育施設などがあれば大変助かるのですが…」という声も聞かれます。

送橋小保護者と宮宿小との懇談会

上郷学区民大運動会


送橋学区民大運動会

地域の輝き、団結はこれからも…

学校跡地利用について考えよう

地域の活力を失ってはならない

地域の太陽だった学校がなくなってしまうことは、地域住民にとって非常に残念で悲しいことです。

上郷地区連合区長の安藤昭義さん（松原）は「学校があったからこそ、上郷四区が団結できた面が多々ありました。例えば上郷学区民大運動会。地区民の親睦を深めるために毎年開催してきましたが、学校の力を多分にお借りしてきました。閉校が決まった昨年度、上郷の頭文字「K」が書かれた旗を学校が作って地区に寄付してくださいました。おそらく先生方は『学校がなくなっても地域の運動会は継続してほしい』という願いを込めて贈ってくださったのだと思います。その想いを大切に、ぜひとも継続させたいと思います。学校の閉校にともない、地域の活気もなくしてはならないと思っています」と地域の活性化を誓っています。

学校跡地利用が今後の大きな課題

また、学校跡地利用も大きな課題です。沢内三区連合区長の清野剛司さん（送橋）は「先月末に送橋小跡地利用検討委員会を発足させました。具体的な内容はまだ決まっておらず、今後学区民にアンケートを取るなどして意見を集約したいと考えています。跡地の活用としては、老人福祉施設などの公共施設、村づくり活動のための拠点施設など、いろいろ考えられると思いますが、跡地活用がうまくいくかどうかは、地元のがんばりも必要ですし、町当局の強力な支援も必要です。両者がお互いに話し合い、良策を考えていかなければならないと思います」と跡地利用の取り組みに期待を寄せています。

廃校を利用して地域活性化を見出す

昨年閉校した小学校は全国で百五十六校、山形県で二校あり、どの自治体でも学校跡地の問題は課題となっているようです。

金山町北西の山間にある戸数三十六戸の谷口地区には、六年前まで金山小学校谷口分校がありました。地域の文化・活動の拠点として地域とともに歩んできた学校でしたが、少子化などの影響により平成八年三月で百十年の歴史に幕を閉じました。

「自分も子どもたちも学んだ愛着ある校舎を壊したくないと願う地区卒業生、これを応援する町の強力な有志、そして、仙台や東京からも分校活用のアドバイス・応援をしてくれる人が現れ、閉校後約一年たった平成九年六月、有志によって農業体験学校『四季の学校・谷口』、同年七月、手打ちそば屋『谷口がっこそば』を起こし、活用に踏み切りました。合併処理浄化槽などの施設改修は、行政の補助事業などを受けながら行いました」と語ってくれたのは、金山町ふるさと保全指導員の庄司博志さん。

『四季の学校』は会員制の一

学校が輝く　地域が輝く

泊二日で行っており、県内外各地から老若男女が生徒として参加しています。開校から六年あまりがたった今では、リピーターも多く、身内感覚で付き合えるまでに交流が深められているそうです。町や地域は、数々のイベントを開催したり、視察の団体、会合の時に利用するなどして、強力にバックアップしてくれているといいます。

『がっこそば』は、土・日曜日の昼に営業していますが、このごろは予約の団体があり、平日の営業も増えているとか。そこで働く元気なお母さんたちとの会話を楽しみにやってくるお客様も多く、働く人たちにとって生きがいとなっているようです。町を訪れる人も多くなり、滞在型ホテル「シェーネスハイム金山」や共生のむら杉沢の「暮らし考房」などとともに、金山町体験コースの目玉となっています。

認定農業者の研修で谷口分校を訪れた岡崎吉博さん（水本）は、「そこで働く人たちがとてもいきいきしていて活気を感じました。水本地区では昨年学校がなくなり、地区民はとても寂しく思っています。なんとか地区の活性化を図りたいと思っていますが、行動までにはいたっていません。話し合いを進めるにあたっても、どのように活用していったらよいかわからず、情報が欲しいですね。こんなことをやっている所があるから行ってみないか、こんな補助があるから使ってみないかといった情報を町から提供してもらいたいです」と町の支援を求めています。

検討委員会で学校跡地利用を検討

町では平成十一年度に学校跡地検討委員会を立ち上げ検討を行ってきました。今年度に入り、先進地の視察のほか、跡地活用の調査研究を東北芸術工科大学へ委託するなど、より具体的な取り組みを進めています。芸工大からの調査結果は今年度中に提出されることになっており、町で検討した上で、地元住民のみなさんと話し合いを進めたいと考えています。

学校跡地を利用するにしてもたくさんのお金がかかります。しかし、金山町の谷口分校のように、あまりお金をかけず、成功している例はあります。成功の要因は、地域に元気を与えたい、私も元気になりたいという、「人」ではないでしょうか。学

●多世代交流施設
「山鳩館（やまばとかん）」秋田県西木村

平成11年に閉校した上檜木内（かみひのきない）中学校を改修。保育ゾーン（かみひのきない保育園）とデイサービスゾーン（デイサービスセンター）、多世代交流ゾーン（多目的ホール、会議室、図書室、展示室）を整備。

総事業費は約１億4800万円で、そのうち約１億円を町の一般財源より支出。高齢者と子どものふれあい拠点施設として活用。

●農業体験施設
「四季の学校　谷口分校」
「がっこそば」山形県金山町

平成８年に閉校した金山小学校谷口分校を活用して、農業体験施設とそば屋を開設。約20人のスタッフが運営にあたっている。

四季の学校メニューは、校舎の雪下ろし、かまくらづくり、ハムづくり、陶芸、炭焼き、漬物づくりなど。

都市と農村の交流、農業体験施設として多くの人が訪れている。

●老人保健施設
「石黒爽風苑（いしぐろそうふうえん）」新潟県高柳町

平成７年に廃校となった石黒小・中学校を活用。校舎は昭和54年に完成した鉄筋造りで比較的新しい。

入所40床、通所10床を医療法人立川メディカルセンター（長岡市）が整備し運営を行っている。生涯学習センターとなった旧体育館はリハビリに活用。

介護拠点施設、雇用確保の面で地域に大きく貢献している。

大きな声で応援する西五百川小のみなさん（町陸上大会）

校跡地への取り組みは、地域活性化へのチャンスかもしれません。

子どもを中心に考える教育環境整備

新生宮宿小の出発は統合の歌で

統合校代表者会では、現在統合の歌（児童会歌）を作っています。三校の子どもたちが気持ちを一つにして統合を迎えようと、あめっかぜの松田昌弘さん（大町）に歌づくりを依頼しています。一月中に完成し、子どもたちはそれぞれの学校で練習を行い、来春の統合式の際には元気な歌声を合わせて、新生宮宿小の船出を飾ることにしています。

みんなで育てよう明日を担う子どもたち

少子化や経済状況などの社会情勢の変化は、ここ十数年の間で急激に進み、町の教育環境にも大きな変化をもたらしました。この波は予想以上のもので、その対応が後れぎみだったことはいなめません。しかし、今後大切なことは、子どもたちがいきいきと学校生活を送るためにはどうすれば良いか、子どもたちをどう育てていくかということで、統合という大きな環境の変化が、次の時代を担う子どもたちにとって意義深いものでなければなりません。

学校がなくなるとはいえ、子どもたちの生活の拠点はこれまでどおりです。地域で子どもを見守る環境は何ら変わりません。社会全体の土台とも言える「教育」の現場が変わろうとする今こそ、学校・地域・家庭が手をとり、明日を担う子どもたちをみんなで育てていきたいものです。

子どもたちの笑顔輝く町に（町陸上大会・大谷小）

郷土を愛する心で町づくりに尽力、貢献

平成十四年度朝日町自治功労者等表彰式が十一月二十日に創遊館で行われ、町づくりに尽力し貢献された二団体・三個人に表彰状と記念品が贈られました。受賞された方々は次のとおりです。

受賞者のみなさん、右から西部壮年会代表清野祐一さん、鈴木長兵衛さん、（阿部副議長）（清野町長）アイジー工業石川堯会長、遠藤貞悦さん、阿部千尋さん

平成14年度 朝日町自治功労者等表彰式

産業功労・教育文化功労

▼**アイジー工業株式会社（金田直治社長・東根市）**

平成二年の朝日町工場操業以来、町工業技術の振興発展に尽力。また、アイジー基金並びにふるさと振興基金として多額の寄付をされ、町産業経済と教育文化の振興発展に寄与されました。

教育功労

▼**鈴木長兵衛さん（真中）**

昭和五十四年四月から平成十四年三月までの二十二年間、町青少年育成推進員として青少年の健全育成と組織の充実に尽力。町青少年教育の振興発展に寄与されました。

教育文化功労

▼**遠藤貞悦さん（栗木沢）**

平成六年四月から平成十四年三月までの八年間、町図書館協議会委員として図書館行政に貢献され、新町立図書館建設などに尽力。町教育文化の振興発展に寄与されました。

体育功労

▼**阿部千尋さん（夏草）**

昭和六十一年四月から平成十四年三月までの十六年間、町体育指導委員として尽力され、ニュースポーツとしてのインディアカ普及と組織づくりに貢献。町社会体育の振興発展に寄与されました。

善行褒賞

▼**西部壮年会（清野祐一代表）**

多年にわたり、西部公民館周辺環境整備を行うなど、町が推進している環境美化運動に積極的に取り組まれています。

西部公民館の環境整備を行う西部壮年会

道路整備で快適な暮らし

町道助ノ巻南線完成

助ノ巻区内の最上川沿いを走る町道助ノ巻南線が完成し、十二月一日に竣工祝賀会が行われました。

この道路は区道を拡張し整備したもので、延長二三五・三m・幅四m。区民負担のほか、水力発電施設周辺交付金事業の補助を受け事業費約千八百万円で完成しました。

道路の改良で除雪車が通行できるようになり、沿線に住む人たちは大変喜んでいます。

開通を祝う区民のみなさん

新たな産業となるか！

ダチョウの魅力に迫る

オーストリッチセミナー開催

十一月十六日、開発センターで県と町共催によるオーストリッチセミナーが開催されました。はじめに「優れた動物資源『ダチョウ』―その豊富な産業資源と活用」と題して、信州大学農学部の唐沢豊教授が講演。唐沢教授は「ダチョウの皮、肉、羽根はいずれも優れた特徴を持っている。エサは人間の食料と競合せず、飼料効率が良い」などと家畜としてのダチョウの魅力をスライドを使いながら紹介。さらに「ダチョウを産業資源として、地域全体で認識することが重要。日本では七～八年前から飼育熱が大変な勢いで高まっており、現在全国で約一万羽が飼われている」と飼育の現状を説明してくれました。

引き続き、長野県伊那市にある伊那オーストリッチファーム社長宮下栄三氏、㈲山形朝日オーストリッチ産業センター社長佐藤俊實氏、小料理きらく店主長岡峰雄氏によるパネルディスカッションが行われました。

「日本はダチョウ皮革の大消費地。輸入が大半で国内産はわずか三〇%だが、高級品を求める消費者は多く、国内産の売れ行きはいい（宮下氏）」「遊休農地の活用など、農家への飼育委託を検討中（佐藤氏）」「低脂肪、低コレステロールのダチョウ肉が注目されている。肉は熱を加えると硬くなる性質をもっているが、無駄になる部位がほとんどなく魅力がある食材（長岡氏）」等々、実際に扱っている現場の状況が報告されました。

また、参加者に行ったアンケート調査では行政の支援を望む声が多く聞かれました。今後町では県の協力も得ながら、農家の飼育支援や皮製品の加工技術支援など、地域特産品としての可能性を秘めるダチョウの産業化に向けて、いろいろな面からバックアップしていくことにしています。

約60人が熱心に耳を傾けたオーストリッチセミナー

㈲朝日オーストリッチ産業センターが無料でダチョウ汁をふるまった

モダンなつくりと眺望が自慢

高田ふれあい交流センター完成

国の高齢者介護予防拠点整備事業の補助を受けて、高田区（佐竹庄吉区長・十七世帯）に「高田ふれあい交流センター」が完成し、十一月二十四日に落成式が行われました。

同センターは長沼に向かう町道沿いに建設され、木造平屋建て床面積は一二四・二三平方メートル（約三八坪）。基礎が高く、屋根は急こう配になっており、冬季間の降雪を考えた造りになっています。館内の床は段差のないバリアフリー構造で、身障者用トイレや冷暖房器具を完備。東側に設けられた和室の窓からは、白鷹山系が一望でき、その眺めは建物に負けないほどのすばらしさです。

「ブナが育む眺望の里高田。区民みんながこの地に誇りと自信を持って生活していますが、交流センターが完成したことでさらに活気が出てきました」と喜ぶ佐竹区長。さっそく、十二月から月に一回「健康づくり事業」を始めるそうで、元気いっぱいの地域づくりが注目されます。

施設完成を祝い記念碑を建立

地域づくりの拠点、高田ふれあいセンター

北部地区の若者たちがそばづくりに挑戦

みんなでつくったそばの味は最高！

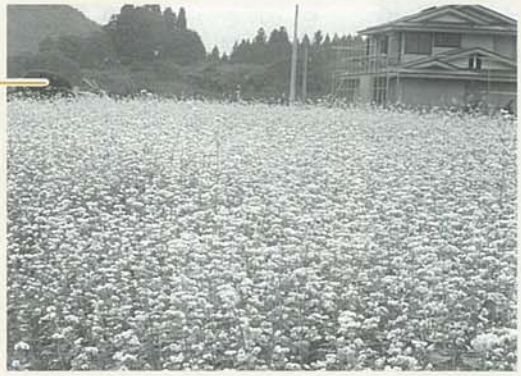
山形県は「そば処」。県内には有名なお店がたくさんありますが、どこのそば屋さんにも負けないおいしいそばを自分たちの手で作ろうと、北部地区青年教室の若者たちが「そばづくり」に挑戦しました。

鈴木俊昭さん（沼向）を講師に、種まきからそば打ちまでを体験。汗水流して作ったそばの味は格別で、舌鼓を打つ顔には喜びの笑みがこぼれていました。

種まき

7月28日（日）　晴れ
そばづくりがいよいよスタート。はじめは種まきだ。1列ずつていねいにまいて、土を薄くかぶせる。

そばの花



9月6日（金）　晴れ
そばの花が満開。白くて小さい花が一面に広がっている。白いじゅうたんみたいだ。その美しさに感動！

収穫

10月5日（土）　晴れ
今日は収穫作業。たくさん実がつき豊作だ。先生からたばね方を教えてもらうが、ちょっと難しい…。

脱穀（だっこく）

10月27日（日）　雨
昔ながらの機械を使って脱穀。とってもおもしろい仕組み。うまくできているなと感心。約80キロの実がとれたぞ。

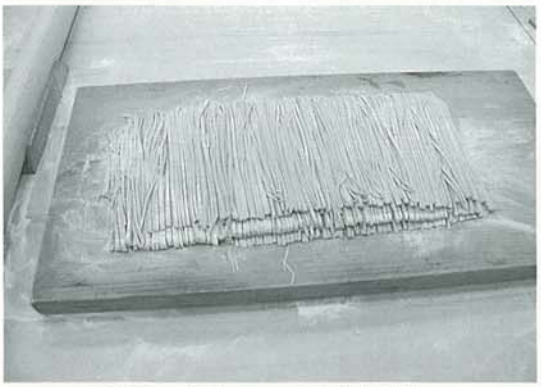
製粉

11月17日（日）　晴れ
昔は石うすを使って挽いていたとか。うすを回し、ふるいにかけること数回。きめ細かな粉はやっぱりひと味違うな。

カメラさんぽ

そば打ち

11月18日（月）　待ちに待ったそば打ち。麺棒を使って生地を伸ばすが…「均等に薄くならない、どうしよう〜」



手打ちそば、ついにできあがり。
見た目より味で勝負！

初めてのそば打ちは、隣の人を横目でチェックしながら

できたてをさっそく試食。お互いに食べ比べて評価。
「やっぱりオレのが一番さ！」

みんなで作ったそばの味は最高。

まちの話題

❶ 朝日町産業まつり・りんごまつり

町民体育館前は大勢の人々でにぎわった

創遊館で行われたりんご品評会「おいしそうね」

朝日町の特産品求めて5000人来場

恒例となった第23回朝日町産業まつりが、11月16日と17日の両日、町民体育館周辺で開かれました。

町内企業の自社製品や商店が品物を持ち寄り展示販売を行ったほか、グリーンクラブの子どもたちがついた餅、商工会婦人部のみなさんが真心込めて作った三平汁、㈲オーストリッチ産業センターのダチョウ汁などが来場者に無料でふるまわれました。

創遊館ではりんご品評会の展示と即売会が開催され、町外・県外からのお客様が例年以上に足を運んでくれました。これまでのキャンペーンの成果が現われてきているものと思われます。

また、「あじぴかワイン」や「ス・ジェネバ」などの試飲会も行われ、多くの人々でにぎわっていました。

❷ 上郷小学校 最上一平さんの課外授業

せんぱい　おしえて！ 感動からはじまる童話づくり

上郷・宇津野出身の著名な児童文学作家最上一平（本名：村山一郎）さんが10月26日、母校上郷小学校で全校児童27人を対象に「童話づくり」の課外授業を行いました。

多数の学校関係者、父兄の参観がありました。各テレビ局、新聞社のさかんな取材の中、子どもたちは真剣に授業に取り組んでいました。

佐藤義弘校長先生は、「上郷小学校は来春で128年の歴史を閉じます。子どもたち27人が先輩の誰も経験したことのなかった閉校という現実に出会うわけです。

子ども一人ひとりの心の記念碑になるようにと『創作童話集』の発行を計画しました。またとない機会です。子どもたちの先輩である最上一平さんのお力をやっとお借りすることができたのです」と語ってくれました。

最上さんの課外授業には三つのねらいがありました。「童話の作り方の手順を伝えること」「感動をもとに物語りをふくらましていくこと」「上郷小を含めたふるさとの山河を心に刻むこと」です。最上さんは童話をつくるという学習を通して自分を発見し、ふるさとの山河の原風景を心に作ってもらいたかったのでしょう。

これは上郷小の「ふるさとに目をむける教育」「ふるさとに愛情を持つ教育」にぴったり重なります。

「銀のうさぎ」「ぬくい山のきつね」「ぼくの大イワナ」「オニヤンマ空へ」など、ふるさとを原風景として多くの名作を世に出し、数々の賞を受けている最上さん。

最上一平さんの「授業」と子どもたちの「学習」と学校の「ねらい」とが結び合って、すてきな『創作童話集』ができあがることでしょう。

❹ 和合小学校 合格りんご贈呈式

和合小を卒業した朝日中３年生20人に合格りんごをプレゼント

お兄さん お姉さん 高校受験がんばって

和合小学校（高橋勝昭校長・児童数57人）の３年生が来春高校受験を控えた同校卒業生に「合格りんご」をプレゼントしました。

りんごは、地域の先生菅井克幸さん（小原）の指導を受けながら、総合学習の時間を利用して栽培したもので、10月26日に行われた贈呈式には同校を卒業した現朝日中３年生20人を招待。

はじめに、児童代表の菅井里香さんと若月未来さんが「花摘みから玉返しなど年間を通して大切に育てたりんごです」「雨が降っても風が吹いても木にしっかりついていたりんご。このりんごのように最後まであきらめず、がんばってください」と激励。その後児童が手分けして一人ひとりに合格りんごを手渡しました。

受け取った平幸子さん（小原）は「心のこもったプレゼントをもらい、とてもうれしいです。りんごは受験の前日に食べようと思っています。みんなのパワーをもらってがんばりたい」と合格を誓っていました。

❸ りんご温泉露天風呂

土・日・祝日に営業 かんじきはいて露天風呂へ

「雪の露天風呂を楽しみたい」というお客様の声も多数あることから、これまで冬季間閉鎖していたりんご温泉の露天風呂を土曜・日曜・祝日に限りオープンすることになりました。

菊地勝也支配人は「体験型観光が注目されていますので、雪が積もっている場合は露天風呂まで〝かんじき〟を履いて行っていただこうと考えています。あったかい露天風呂に入りながら見る雪景色は趣があり、ぜひ眺めていただきたい」と、お客様の来場に期待を寄せています。

❻ 総務大臣表彰受賞

統計調査推進に尽力 長岡幸三さん（太郎一）

第32回山形県統計大会で、町統計調査員の長岡幸三さん（太郎一）に、総務大臣より統計功労者表彰が授与されました。

長岡さんは昭和57年より統計調査員として20年間の長きにわたり、各種統計調査の推進に尽力。また、平成13年事業所・企業統計調査の調査員として事務成績が特に優秀であり、その功績が認められての受賞となりました。

❺ 西船渡区 愛林会ボランティア活動

荒れた開拓地を緑地に戻そう

雑木林だった区の土地を戦後食糧難の時代に開墾。しかし、今は荒れ地の状態。その土地を元の緑地に返そうと、西船渡区の有志15人が愛林会を結成し、育樹活動に取り組んでいます。

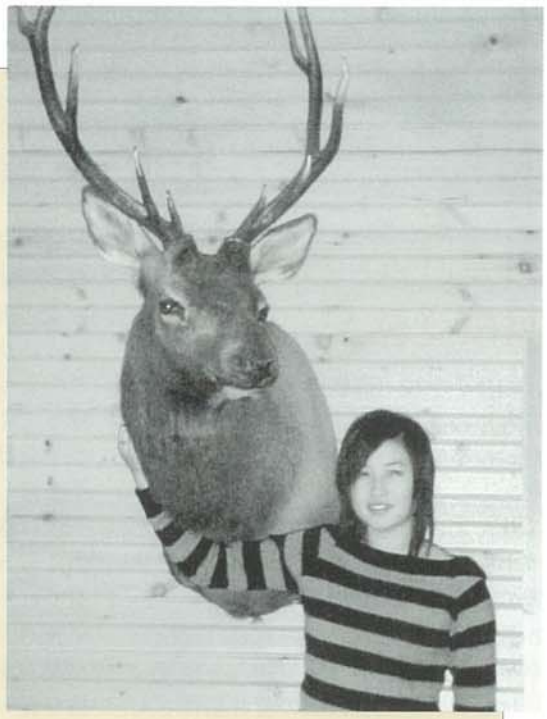
11月17日に定植作業が行われ、どんぐりから育てたクヌギ約500本と、杉の木100本が植えられました。「食糧難の時代にみんなで開墾した土地は、その役割を十分果たしてくれました。その土地を荒れたままにしておくのは申し訳なく、元の緑に戻さなければならないと思っていました。多くの人たちの力で美しい山に戻ることでしょう」と会長の若月清五郎さん。

今後は下刈りなどの手入れを行い、区民の山を大切に守り育てていくそうです。

作業に励む西船渡愛林会のみなさん

みんなのひろば

今輝いて



アメリカ生活をエンジョイしています

朝日町のみなさんお元気ですか？

今、私はロータリークラブの交換留学生としてアメリカで生活しています。

先日、留学生同士が集まってカルチャーフェアを開きました。私たちアメリカにホームステイしている留学生が、それぞれ自分の国を紹介するために、民族衣装や食べ物などを持ってきて、他国の人たちに紹介しました。私はお茶や着物（じんべえ）、箸などを持って行きました。派遣学生の中に日本に興味を持っている人が何人もいて、とてもうれしかったです。

今の私は世界大戦とテロにすごく興味を持っています。なので、いろいろと調べたりしているのですが、英語を理解するのが大変でとまどっています。でも、このようなことに興味を持ったのは初めてで、この機会（留学）のおかげだと思っています。

今週の土曜日にダンスパーティが学校で行われるので、とても楽しみにしています！　ダンスは得意ではありませんが、友だちを増やす絶好のチャンスだと思っています。アメリカの学校は日本とスタイルがまったく違います。例えば、授業中に食事ができたり、お菓子を食べたり、ゲームをしたり、毎日いろんな格好で登校したり…。先生までもがユニークで日本では考えられないことばかりです。

毎日いろんな感動があって楽しいです。帰国まであと八カ月、充実した日々を過ごしたいなと思っています。

Sincerely Kiriko Satake

現在ホームステイしているクラックラー家のみなさんと。ウサギやシカが顔を出す自然豊かな環境で楽しく生活している。

朝日ロータリークラブ交換留学生

佐竹　喜理子さん

（左沢高校３年・高田）

朝日ロータリークラブの交換留学生として、今年８月から１年間アメリカウィスコンシン州にあるレイクランドハイスクールに留学中。日本の文化を知ってもらいたいと、たくさんの人と積極的に交流し、アメリカ生活をエンジョイしている。

「将来は英語を生かした職業につきたい」と語る、笑顔がかわいい18歳。

となりのリンゴさん

作・ホリィ (147)

新婚さん

沼向／鈴木 優太さん 智恵(ちえ)さん

天童市にある同じ会社で働くお二人。優太さんが新入社員としてパソコン研修を受けた時、先生をつとめたのが智恵さんだった。２年目には同じ部署に配属となり、会社仲間と一緒に遊ぶにつれ、心魅かれていった優太さんは「車で京都に行こう」と大胆に誘ってみたという。「ちょっと無謀な面もあるけれど、何でも前向きに挑戦しようとするのが優太くんの良いところ。京都旅行は、そんな彼の前向きな姿勢や大きな心を知ることができました。私にとって一番の思い出です」と智恵さんは話してくれました。

将来の夢は二人でそば屋をやること。とっても明るくしっかり者のお二人は、そばのように腰の強い、噛めば噛むほど味わいのあるすてきな家庭と、おいしいそば屋を築かれることでしょう。末長〜く〝そば〟にいて、いつまでもお幸せに…。

創遊館お笑い寄席

明るい笑いは元気の源！ マギー司郎さん 三笑亭夢之助さんが来たよ

テレビでおなじみのマギー司郎さん、三笑亭夢之助さん、水田かかしさん、ケツカッチンのお二人を迎え十一月十六日、「創遊館お笑い寄席(よせ)」がにぎやかに開催されました。

ステージでは漫談、漫才、手品、落語が披露され、それぞれ巧みな話術で観客を魅了。特にマギー司郎さんの茨城弁で話すほのぼのトークに超満員の客席は大爆笑。頬がゆるみっ放しの楽しいステージでした。

町民の声

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。
町に対する意見や要望、提案、みなさんの周りでの出来事や話題、日ごろ感じていること、イラスト、質問などお待ちしています。

■あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場企画課　企画広報係
（☎67―2112　FAX67―2117）
■Eメール／kikaku@town-asahi-yamagata.com

図書館の新刊を増やして！

町 立図書館をよく利用しますが、昨年よりも新刊が少なくなったように思います。図書館の予算が減ったのでしょうか。話題の本が借りられなくて残念です。（匿名）

答 いつも図書館をご利用いただき、ありがとうございます。図書館といたしましては、多くのみなさんに利用していただけるよう、新刊図書をなるべく多く購入したいと考えておりますが、厳しい財政事情により予算に応じた図書購入となっています。

町立図書館にない本は県立図書館や近隣の図書館から借りて、できるだけご要望にお応えするように努力しておりますので、読みたい図書があれば遠慮なく係へ申し付けてください。（生涯学習課）

町立病院に耳鼻科の設置を

町 立病院に耳鼻科を設けていただきたくお願いします。（浅野やすさん・明鏡荘）

答 現在、町立病院では内科・外科・整形外科・眼科の四科を設けており、ご要望の耳鼻科新設は、医師の確保や診療室のスペースの問題があり、今のところ難しい状況です。

しかし、他市町村に行かなければならない不便性もあり、今後患者数の動向を見ながら検討したいと思います。

これからも町民のみなさんに愛される「町民のための病院」として職員一同がんばりますので、ご理解を賜りますようお願いします。（町立病院）

町の財政は本当に大丈夫？

先 月の広報「町の財政状況公表」を見て、町の借入金がおよそ七十八億円もあると知り大変驚きました。

町が破たんすることはないと思いますが、ちょっと心配になりました。町の財政は本当に大丈夫ですか。（匿名）

答 地方債（借入金）は次世代も利用する資産形成、例えば道路整備や図書館建設などをする場合に発行が認められます。

地方債の中には、返済分を地方交付税で補てんしてもらえるものもあり、町ではそれらをできるだけ活用して事業の推進に努めています。

また、地方債の発行を元金償還額よりも少なくし、積極的に繰上償還を行いながら、地方債残高を減らす対策も実施しています。

現在の財政状況はとても厳しく赤信号が灯っている状態です。国の財政構造改革により地方交付税も年々減っており、事業の展開にあたっては、内容・緊急度・効果を吟味して、限られた予算の中で最大のサービスを行うよう努力してまいりますので、町民のみなさんのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。（総務課）

真っ赤な色したりんごジュース誕生

ジェネバジュース「ス・ジェネバ」の命名者
鈴木光さんと長女小春ちゃん

カナダ原産のりんご「ジェネバ」を使ったジュースがこのたび商品化されました。名前は公募百四十八点の中から鈴木光さん（山形市）の作品「ス・ジェネバ」に決定。「ジェネバと聞いた時、方言の『すじぇえる（差し上げる）』を思い浮かべました。町の新しい特産品を多くの人に紹介し、飲んでもらいたいという思いで名付けました」と鈴木さん。

製造はさがえ西村山農協女性部朝日支部が行い、農協売店などで販売。一五〇㎖入り一五〇円。今年は限定千本販売します。

こせきのまど

■11月１日～30日届出

すこやかに

（出生届）

区　名	出生児氏名	性別	保護者名
助ノ巻	安藤　百恵（もえ）	女	弘次・みどり
栄　町	阿部　司（つかさ）	男	多加志・和子
大　町	渡邉　遥稀（はるき）	男	忍・真由美
大　町	滝口　結斗（ゆいと）	男	祐次・恵美子

おしあわせに

（婚姻届）

佐藤貴志（沼向）	♡	山﨑恭子（岩手県）
鈴木優太（沼向）	♡	木村智恵（東根市）

やすらかに

（死亡届）

区　名	死亡者氏名	世帯主
新　宿	今井正枝	康夫
大谷五	白田しげ	正昭
大　沼	最上いまよ	淳雄
明鏡荘	小川尚子	本人
明鏡荘	相馬八千代	本人
西船渡	吉田千代	芳美
大　隅	鈴木ゼく	功
八ツ沼	齋藤昭一	昭
太郎二	長岡みよ	五郎

●掲載を希望しない方は、お届けの際にお申し出ください。

人口と世帯数

●平成14年11月30日現在

人口		9,252人（減４人）
	男	4,599人（－）
	女	4,653人（減４人）
世帯数		2,581戸（減９戸）

（ ）内前月比

くらしの知恵袋 ㊹

神保（しんぼ）幸子さん（緑町）

ハーブを使ったおいしい料理

耳をすますと、ジングルベルの音が遠くから聞こえてきます。
もうじきクリスマスですね。
みなさんはどのように過ごされますか？
今年はハーブを使った料理で、ちょっとおしゃれなパーティーを開いてみませんか。簡単な料理をいくつか紹介します。

バジルスパゲティー

●材　料（１人分）

スパゲティー……80～100ｇ　シーフードミックス……40ｇ
バジルの葉……３～５枚　ハーブのコショウ……少々
バジルペースト……大さじ１　オリーブオイル……適宜

●作り方

①シーフードミックスに火が通ったら、スパゲティーを入れる。
②ハーブコショウで味付けし、バジルの葉とペーストを入れ、混ぜてできあがり。オリーブオイルをたっぷり使った方がイタリア風になる。

カボチャケーキ

●材　料（１人前）

A
- 裏ごしのカボチャ……50ｇ　ドライミント…大さじ１
- 生クリーム……大さじ１　バター……12ｇ
- 砂糖……カボチャの甘さをみて
- 卵の黄身……少々　ミントの葉……１枚

●作り方

①カボチャにAの材料を入れ、よく混ぜる。
②型にバターをぬり、①を入れる。
③上を平らにして卵の黄身をハケでぬる。
④200～220度のオーブンで15～20分焼く。
⑤冷めてから皿にのせ、ミントの葉を飾る。

ハーブパン

●材　料（パン焼き器を使った場合）

強力粉……280ｇ　塩……小さじ１
砂糖……大さじ２　スキムミルク……大さじ１
ドライイースト……小さじ１　バター又はマーガリン……10ｇ
水……180cc　ハーブ……適宜

・ハーブは好みで５種類くらい。「ミント」「カモミール」「マロー」「バラ」「ラベンダー」などを刻んで入れてください。
・材料の分量は目安です。パン焼き器のメーカーによって異なりますので、調整しながら作ってください。

［ハーブの働き］バジルは消化促進・健胃・強壮など、ミントは鎮静・疲労回復などの効果があると言われる。

■広報あさひまち　第553号　平成14年12月15日発行　■発行　山形県朝日町　■編集　朝日町広報委員会／山形県西村山郡朝日町大字宮宿1115　☎0237(67)2111　■印刷　豊田太印刷所

わたしの作品

「サンタとモミの木」

今井三智子さん（新宿）

今井さんがパッチワークと出会ったのは9年前。当時住んでいた東京で、カルチャースクールに通い始めたことがきっかけです。これまで、ベッドカバーやこたつカバーなどにも挑戦してきましたが、縫うよりも製図を描く方が難しく、完成まで1～2年かかったといいます。「長い時間をかければかけるほど、できあがった時の喜びは大きいですね。それはもう、何とも言えないうれしさですよ。この喜びがくせになっちゃうんですよね」と今井さん。

今度は1m四方のクリスマスタペストリーを作りたいそうで、「来年のクリスマスに飾れるよう、がんばろうかな」と話しています。

春 夏 秋 冬

編集後記

「こんにちは」。取材などで学校を訪れることがありますが、子どもたちはいつも元気なあいさつをしてくれます。学校だけではありません。スーパーや道端で会っても「カメラのお姉ちゃん（または、おばちゃん）、こんにちは」と気軽に声をかけてくれます。

先日、町青少年健全育成町民会議が募集した「あいさつ標語」の表彰式が行われ、最優秀作品に宮宿小学校三年富樫真実さんの「わたしから勇気をもってこんにちは」が選ばれました。「あいさつしようかまよったけれど、勇気を出してしてみたら、相手の人はにっこり笑って『こんにちは』と言ってくれました。うれしかったです。あいさつしてよかったなと思いました」と受賞のあいさつをした真実さん。あいさつの大切さを改めて教えてもらいました。（F）